

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

高齢者切除不能悪性中下部胆管閉塞症例に対する金属ステント留置の安全性に関する多施設共同後ろ向き試験

2. 研究の対象患者

切除不能と診断された悪性中下部胆管閉塞症例

3. 研究の対象期間

2012年1月1日～2016年7月1日

4. 研究の概要

高齢化社会において内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）は、膵・胆道疾患に対する診断、治療において必要不可欠な手技である。近年の画像診断の進歩によりERCPは、治療手技が中心となってきている。切除不能悪性中下部胆道閉塞に対する治療は内視鏡的な金属ステント留置が推奨されているが現在までに高齢者切除不能悪性中下部胆道閉塞症例に対する金属ステント留置において安全性、有用性を検討した多施設共同後ろ向き試験は存在しない。これらの手技が高齢化社会における高齢者においても安全に施行可能か検討するに至った。

5. 研究実施予定期間

2016年11月15日～2017年10月30日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：識別コード、年齢、性別、金属ステント留置日、ステント閉塞日、原疾患、基礎疾患等

7. 外部への試料・情報の提供

郵送

8. 研究組織

千葉大学 露口利夫
北里大学医学部附属病院 岩井知久
亀田総合病院 中路聡
旭中央病院 志村謙次
横浜市立大学附属市民総合医療センター 杉森一哉
国立がん研究センター中央病院 坂本康成
国立がん研究センター東病院 橋本祐輔
太田記念病院 伊島正志
湘南鎌倉病院 増田作栄
がん・感染症センター都立駒込病院 千葉和朗
東邦大学医療センター大橋病院 権勉成
国立国際医療センター病院 忌部航

9. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院旭中央病院
・研究責任者：消化器内科 志村 謙次
・臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)

(研究代表者)

千葉大学大学院医学研究院消化器・腎臓内科学 露口 利夫